

『赤い鳥』と教科書

— 『赤い鳥』創刊 100 周年記念 —

「蜘蛛の糸」(芥川龍之介)や「ごん狐」(新美南吉)を生み出した、大正・昭和初期の児童文芸誌



宮城教育大学附属図書館 展示ホール

7月10日(火)~8月10日(金) 【入場無料】

平日 9時~22時 | 土日祝 10時~17時

(ただし、8月7日(火)~10日(金)は9時~17時)

▼ 関連イベント

8月2日(木)13時30分、6日(月)12時30分、10日(金)13時
本学学生アカペラサークル「奏」

童謡アカペラ・ライブ

8月10日(金)13時30分~15時30分

トークイベント『赤い鳥』と教育・児童文化

加藤理氏(文教大学)・大木葉子氏(仙台白百合女子大学)・中地文(本学図書館長)

▼ お問い合わせ 宮城教育大学附属図書館 022-214-3350

『赤い鳥』と教科書

— 『赤い鳥』創刊 100 周年記念 —

7 月 10 日(火)～8 月 10 日(金)

— 日本の子供のためには僕は一流の文学者が進んで執筆しなければ嘘だと思ふ(鈴木三重吉) —

● 展示概要

100 年前の 1918(大正 7)年 7 月に創刊された児童文芸誌『赤い鳥』は、日本児童文学史を語る上で欠かせないものであるだけでなく、教育との関わりにおいても重要な雑誌です。子どもの読み物や作文に対する主宰者鈴木三重吉の考え、およびそれを反映した『赤い鳥』掲載作品は、同時代の国語の副読本や綴方教育に影響を及ぼしました。また、戦後の教育改革以降、『赤い鳥』掲載作品は小学校・中学校の国語教科書や音楽教科書に採録されてきました。

本展示では、時代の流れにそって『赤い鳥』と教科書との関わりを紹介し、その特徴と意味を考えます。展示構成は以下の通りです。

第 1 章 『赤い鳥』の創刊とその背景

鈴木三重吉による『赤い鳥』創刊の動機のひとつとして、当時の子どもの読み物の質の低さに対する問題意識がありました。では、三重吉が批判したのはどのような読み物だったのでしょうか。この章では、『赤い鳥』創刊以前の児童文学や教科書を紹介します。

第 2 章 『赤い鳥』の成果と影響

途中休止期間を挟みながら 1936(昭和 11)年まで刊行された『赤い鳥』は子どもの教育・文化に対してどのような理想を提示し、何を掲載してきたのでしょうか。また『赤い鳥』の試みは、同時代の児童文学界や教育界に、そして子どもたちに、どのような影響を及ぼしたのでしょうか。この章では『赤い鳥』の成果と影響を検討します。

第 3 章 『赤い鳥』と教科書

『赤い鳥』掲載作品の教科書教材化が本格的に進むのは戦後です。この章では、1940 年代末から現代までの国語教科書および音楽教科書を取り上げ、『赤い鳥』掲載作品の採録状況を確認するとともに、そこにどのような傾向が見出せるのか探ります。

※ 雑誌『赤い鳥』および書籍『赤い鳥の本』等の展示は主に複製版となります。

● 関連イベントのご案内

① 童謡コンサート

『赤い鳥』に掲載された作品をはじめ、大正時代から昭和初期に発表された童謡を演奏します。

- ・日時：7 月 10 日(火)12 時 30 分～50 分
- ・演奏：本学初等音楽コース・中等音楽教育専攻 2 年生
- ・曲目：《かなりや》西條八十作詞・成田為三作曲
《赤い鳥小鳥》北原白秋作詞・成田為三作曲
《風》西條八十訳詩(クリスティーナ・ロセッティ原詩)・草川信作曲
《青い目の人形》野口雨情作詞・本居長世作曲
《七つの子》野口雨情作詞・本居長世作曲

② トークイベント『赤い鳥』と教育・児童文化

『赤い鳥』はどのような背景のもとに誕生したのか、『赤い鳥』の提示した子どもの教育・文化の理想とはどのようなもので、どのように受容されたのか、今『赤い鳥』を問い直すことの意義は何か等々の問題について、教育系学部・学科で教員養成に携わる下記の 3 人が語り合います。

- ・日時：8 月 10 日(金)13 時 30 分～15 時 30 分
- ・講師：加藤理氏(文教大学教育学部教授・本学非常勤講師。専門は児童文化学・子ども史)
大木葉子氏(仙台白百合女子大学人間学部講師・本学非常勤講師。専門は日本児童文学・国語教育。主に新美南吉を研究)
中地文(本学教授・附属図書館長。専門は日本児童文学。主に宮沢賢治を研究)

③ 童謡アカペラ・ライブ～『赤い鳥』童謡ほか～

アカペラサークル「奏」の学生の皆さんが、童謡を歌います！

- ・日時：8 月 2 日(木)13 時 30 分、6 日(月)12 時 30 分、10 日(金)13 時(トークイベント開始前)の 3 回
※各回とも 20 分程度

何れのイベントも本学附属図書館で開催！

宮城教育大学附属図書館

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 149

TEL: 022-214-3350

E-Mail: toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

http://library.miyakyo-u.ac.jp/

https://twitter.com/muelibrary



交通案内

●地下鉄 東西線

- ・「仙台」駅から「八木山動物公園」行き乗車、「青葉山」駅下車(乗車時間 9 分、料金 250 円)
- ・「青葉山」駅「北1出口」から大学正門まで徒歩 7 分